

研究プロジェクト「心の起源」
Research project: Origins of human mind

研究代表者： 松沢 哲郎 国際高等研究所学術参与／京都大学靈長類研究所教授

Project leader: Dr. Tetsuro MATSUZAWA, IIAS academic counselor;
Professor, Primate Research Institute, Kyoto University

研究目的要旨：

本研究の目的は、日本から発するオリジナルな「心の起源」の先端研究である。日本語の「心 *kokoro*」という概念は、欧米でいう *mind*、*emotion*、*intelligence*、*heart*、*psychological*、*will*、*intention*、*consciousness* 等を、すべて含んでいる。本研究においては、「心」や「人」といった1文字に集約される日本人が無意識にもっている全体観、対象に対する全体的アプローチをたいせつにする。心を担う器官が脳だということは自明である。しかし、欧米が主導してこれまでおこなわれてきた要素還元的アプローチの対極として、新しい心と脳の研究につながる萌芽を育てる必要があるだろう。それが心の働きを社会や文化や生態環境や進化といった視野から捉える全体的アプローチである。さらに、現代社会が直面する課題としての発達障害のように、現実に立脚した課題を視野に入れた基礎科学研究を推進する必要がある。そうした研究萌芽の創出に応える「心の起源」の先端研究を推進することを目的とする。

研究目的：

本研究の目的は、日本から発するオリジナルな「心の起源」の先端研究である。日本語の「心 *kokoro*」という概念は、欧米でいう *mind*、*emotion*、*intelligence*、*heart*、*psychological*、*will*、*intention*、*consciousness* 等を、すべて含んでいる。本研究においては、このような欧米の要素還元的に細かく分析するアプローチではなく、より大きな枠組みの中で人間の心の働きおよびその基盤である脳の機能を研究しようとするものである。心を担う器官が脳だということは自明である。また脳を含む身体の物質的基盤がゲノムすなわち全遺伝情報にあることも論を待たない。心の働きを脳機能に還元し、脳機能を神経細胞活動と神経伝達物質に還元し、それをまた遺伝的基盤としてのゲノムに還元するのがひとつの理解の方法だ。すなわち欧米でさかんな要素還元的アプローチである。それに対して、より大きなシステムの中で心の働きを理解することも重要だろう。人と人のあいだに成り立つ心の働きや、社会のなかでの心の働き、さらに生態環境から来る心の働きの制約に目を向けることも重要だ。この全体的ないし反還元的なアプローチは、日本から世界に向けて発信してきた靈長類学という学問の成果でもある。「心も進化の産物である」という視点から、人間の心の進化的起源を問う研究だといえる。全体構想の特徴は、心のまるごと全体を対象とし、全体的アプローチを探ることである。そこで、靈長類、脳、ゲノム、社会といった4つのキーワードを掲げて、異なるレベルでの独創的な研究を同時並行的に推進しつつ、相互討論と共同研究を通じて止揚する。

本研究を実施すべきとの着想に至った経緯として、わが国におけるこれまでの研究、他国でおこなわれている研究への反省がある。従来の心や脳の研究とくに欧米主導の研究に何が欠けているか。今後の研究に必須な日本独自の科学貢献は何かを考えた。その結果、脳を包みこむ身体全体、それを包み込む2人の間に成り立つ関係、さらにそれを包む社会や文化、その基盤である生態環境、こうした大きなシステムの中に心や脳の機能を位置付けて研究することがきわめて重要だという着想に到った。こうした全体的アプローチは、欧米にはない発想だ。しかし現在、欧米の脳研究者の中には、こうしたユニークな全体論の枠組みに多大な関心を寄せている人が少なくない。心の働きの包括的理は、今後、学問と

して大きく発展していくことが予想される。

研究期間において何をどこまで明らかにしようとするのか、そのために採る方針について焦点を絞って説明する。具体的には、この問題を比較認知科学、神経科学、進化心理学、発達心理学、実験社会学、老年学、フィールド医学、認知ロボティクス、認知神経科学、比較ゲノム科学等の研究者や仏教哲学の専門家等が集まり、問題を深化・発展させる。そのなかで、オリジナリティの高い新たな学術の「芽」を生み出し、心の働きの包括的理解を目指した「心の起源」の先端研究を発展させる。具体的には、脳と心が不可分の一体だとして、その心が、①ひとつのまとまりとしてどう機能するか。②その脳と心の特徴として、より大きな系（人と人との間）の中で、どう機能するか。③さらにもっと大きな系、つまり社会や文化や生態環境のなかで、どう機能するか。④それがまた進化という歴史のなかでどう形作られてきたか、について明らかにする。

期待される研究成果としては、こうした心の全体的アプローチから、現実の社会が直面している課題への対処、「心の健康」「健やかな心とは何か」という素朴で切実な問い合わせに対する答えが見つかるだろう。生物学的に妥当な指針の提言である。基礎科学としての心や脳の科学的研究も、その研究目的を対社会的に説明する責任がある。例えば子供の心の発達について、教育現場で七五三という表現がある。小学校で3割が落ちこぼれ、中学校で5割が落ちこぼれ、高校へ行くと7割が落ちこぼれるという意味だ。また「発達障害」という言葉で最近くり出される問題も増大している。平成17年には発達障害者支援法も制定された。そこでは、自閉症、アスペルガー症候群その他の広汎性発達障害、学習障害、注意欠陥・多動性障害などの発達障害を持つ者の援助等について定められている。これらの障害に至るメカニズムがわかったとして、その先に、どう対処するのかという視点が用意されていなければならない。教育のあり方や社会制度の設計までも視野に入れる必要がある。すなわち、これが「日々の暮らしの中から発する基礎科学」という視点である。従来の脳科学の範疇を越えて、心の科学的研究は、人間の心のまるごと全体を理解するとともに、現実の暮らしの中から発想するような基礎科学というものを目指す必要があるだろう。そのためにも、「アウトグループの発想」ないし「問題をより大きな文脈の中で捉える」という視点が有効だと考えている。

高等研カンファレンスの開催に関連する補足

国際高等研究所は、当面は毎年1回、1テーマに関する国際シンポジウムを開催する。このテーマは、研究企画会議によって立案・選定され、分野を超えた視野に立って、広い領域から選ばれることを原則とする。国際的にも一流の研究者に参加してもらうものである。第1回のカンファレンスは、「意識は分子生物学でどこまで解明できるか：神経科学の最前線」について、平成23年12月に開催した。第2回のカンファレンスは、「心の進化的起源」について、平成24年度に開催を計画している。この二つのカンファレンスは、極めて密接に関連した問題を扱うものである。すなわち、前者は還元的なアプローチで意識の問題に迫ろうとするのに対して、後者は非還元的なアプローチで心や脳の問題に迫ろうとしている。初回のカンファレンス「意識は分子生物学でどこまで解明できるか」においては、後半、次第に問題を高次な脳機能に展開させていき、第2回の「心の進化的起源」へと繋げるようすることを考えて実施された。現時点で、最初から両者を一緒に議論させるのは、おそらく混乱を招く恐れもあるので、当初は二つに分けて行い、やがて両方の研究者が一同に会して議論するような第3の国際カンファレンスが開催されるようになる予定である。

Objectives:

This project aims to promote the advanced studies on the origins of human mind and related functions. The Japanese word “Kokoro” includes the various English terms such as mind, emotion, intelligence, heart, psychological, will, intention, consciousness, etc. The Japanese characters such as “*kokoro*, 心” and “*hito*, human, 人” represent the complex ideas such as “mind” and

“human” in a very simple way.: Every important aspects are put into such a small world. This might be unique characteristics of Japanese culture to perceive complex things as a whole and to show the essential part in a simple way. It is obvious that the brain is the responsible organ of human mind. However, the deduction method popular in the Western science may need to have the complimentary approach. The Japanese-style holistic approach can be the seeds of developing the new disciplines for studying brain and mind. The new approach pays attention to the constraints coming from the larger contexts such as society, ecological environment, and the evolution. Moreover, this program is sensitive to the translational aspect of the basic sciences, for example, trying to find the solution toward the problem of the developmental disorders that the modern societies are facing. In sum, the program will illuminate the new seeds of the advanced studies on the origins of human mind and related mental functions.

キーワード: 心、進化、全体的アプローチ

Key Word: Kokoro, evolution, holistic approach

参加研究者リスト : 25名 (◎研究代表者)

氏名	職名等
◎松沢 哲郎	国際高等研究所学術参与／京都大学靈長類研究所教授
浅田 稔	大阪大学大学院工学研究科教授
足立 幾磨	京都大学靈長類研究所国際共同先端研究センター助教
伊佐 正	自然科学研究機構生理学研究所教授
石黒 浩	大阪大学基礎工学研究科教授 (2012年度から参加)
入来 篤史	理化学研究所脳科学総合研究センター 象徴概念発達研究チームシニアチームリーダー
内田 伸子	お茶の水女子大学大学院特任教授
亀田 達也	北海道大学社会科学実験研究センター教授・センター長 (2011年度途中から参加)
幸島 司郎	京都大学野生動物研究センター教授
坂上 雅道	玉川大学脳科学研究所教授
積山 薫	熊本大学文学部教授
高橋 里英子	日本科学未来館サイエンスコミュニケーションセンター (2011年度途中から参加)
友永 雅己	京都大学靈長類研究所准教授
西田 真也	NTTコミュニケーション科学基礎研究所主幹研究員
長谷川 寿一	東京大学大学院総合文化研究科教授・研究科長
平田 聰	京都大学靈長類研究所特定准教授
藤田 和生	京都大学大学院文学研究科教授 (2012年度から参加)
松林 公藏	京都大学東南アジア研究所教授
明和 政子	京都大学大学院教育学研究科准教授 (2011年度途中から参加)
山川 宗玄	正眼短期大学学長
山岸 俊男	玉川大学脳科学研究所教授
吉川 左紀子	京都大学こころの未来研究センター教授・センター長
吉田 正俊	自然科学研究機構生理学研究所助教 (2012年度から参加)
渡辺 茂	慶應義塾大学文学部教授 (2012年度から参加)
渡邊 正孝	東京都医学総合研究所特任研究員 (2012年度から参加)

2012年度研究活動予定：

① 研究会開催予定：

第1回： 2012年4月26日～4月27日（於 高等研）

第2回： 2012年7月15日～7月16日（於 京都大学吉田泉殿、祝休日のため）

第3回： 2012年11月10日～11月11日（於 高等研）

第4回： 2013年2月23日～2月24日（於 高等研）

② 話題提供予定者：4回の総合計で25名

第1回は、海外からの来訪者5名（招聘ではなく、犬山からの国内旅費だけ必要です）

@行動学・生態学・考古学の若手研究者を海外から招いており、それを中核に会合をもつ。

第3回は、海外からの来訪者1名（これも招聘ではなく、東京からの国内旅費だけ必要です）

@認知哲学の研究者を海外から招いており、それを中核に会合をもつ。

以上の専門分野を活かしつつ、心の起源研究に迫る「研究萌芽の創出」や「学術の芽を見つけ、学術の芽を育てる」こととする。日本人の話題提供者については現時点では特定できない。予想される人数としては、4回の合計で約20名。最終的には第4回目の会合で調整する。海外からの参加者は上記の5名を予定しているが、いずれも招へい費用は生じない。「諸謝金支給規程」では、10,000円／回で、特別に謝金額を必要とすることはない。

研究活動実績：

2011年度：

2011年度（本年度）の実施状況や成果について記入する。当初の研究目的は、日本から発するオリジナルな「心の起源」にかんする先端研究である。日本語の「心 *kokoro*」という概念は、欧米でいう *mind*、*emotion*、*intelligence*、*heart*、*psychological*、*will*、*intention*、*consciousness* 等を、すべて含んでいる。本研究においては、このような欧米の要素還元的に細かく分析するアプローチではなく、より大きな枠組みの中で人間の心の働きおよびその基盤である脳の機能を研究しようとするものである。「心も進化の産物である」という視点から、人間の心の進化的起源を問う研究だといえる。全体構想の特徴は、心のまるごと全体を対象とし、全体的アプローチを探ることである。研究期間において、この問題を認知科学や神経科学だけでなく、靈長類学や認知ロボティクスなど日本発のユニークな研究分野を交差させて、活発な討議をおこなった。もうひとつ特記すべきは、宗教の取り込みである。禅や浄土宗など異なる立場からの話をきき、そこに現代の終末期医療の実態もからませながら、生老病死のまるごと全体をとりだして議論の俎上に乗せようとした。「日々の暮らしの中から発する基礎科学」という視点である。従来の科学の範疇を越えて、人間の心のまるごと全体を理解するとともに、現実の暮らしの中から発想するような基礎科学というものを目指している。こうした問題意識を参加者のあいだで共有することができたのが2011年度の実績だといえるだろう。

研究会開催実績：

研究会

- 第1回 2011年4月23日 (於：高等研)
- 第2回 2011年10月15日 (於：高等研)
- 第3回 2012年1月28日～29日 (於：高等研)

幹事会

- 第1回 2011年10月15日 (於：高等研)
- 第2回 2012年1月28日 (於：高等研)

話題提供者：22名

- | | |
|--------|----------------------|
| 秋田 光彦 | 大蓮寺住職・應典院代表 |
| 有田 菜穂 | 京都大学大学院教育学研究科修士課程2年 |
| 伊村 知子 | 京都大学靈長類研究所特定助教 |
| 兼子 峰明 | 京都大学靈長類研究所後期博士課程3年 |
| 狩野 文浩 | 京都大学靈長類研究所後期博士課程3年 |
| 木下 こづえ | 神戸大学大学院農学研究科研究員 |
| 酒井 朋子 | 京都大学大学院理学研究科後期博士課程3年 |
| 瀧本 彩加 | 京都大学大学院文学研究科大学院生 |
| 田中 正之 | 京都大学野生動物研究センター准教授 |
| 出水 明 | 出水クリニック理事長・院長 |
| 服部 裕子 | 京都大学靈長類研究所ポスドク研究員 |
| 藤澤 道子 | 京都大学野生動物研究センター助教 |
| 藤田 和生 | 京都大学大学院文学研究科教授 |
| 松井 三枝 | 富山大学大学院医学薬学研究部准教授 |
| 明和 政子 | 京都大学大学院教育学研究科准教授 |
| 村上 郁也 | 東京大学大学院総合文化研究科准教授 |

山本 真也 京都大学靈長類研究所ヒト科3種比較研究プロジェクト特定助教
横山 紘一 正眼寺短期大学副学長
吉田 正俊 自然科学研究機構生理学研究所助教
渡辺 茂 慶應義塾大学文学部教授
Christoph Dahl 京都大学靈長類研究所ポスドク研究員
Chris Martin 京都大学靈長類研究所後期博士課程3年

その他の参加者：12名

亀田 達也 北海道大学社会科学実験研究センター教授・センター長
桑子 朋子 日本科学未来館サイエンスコミュニケーター
佐藤 弥 京都大学靈長類研究所白眉プロジェクト特定准教授
高橋 里英子 日本科学未来館サイエンスコミュニケーター
辻本 雅史 京都大学大学院教育学研究科教授
中村 美穂 京都大学野生動物研究センター准教授
服部 裕子 京都大学靈長類研究所PD
開 一夫 東京大学大学院総合文化研究科教授
水野 壮 日本科学未来館
宮原 裕美 日本科学未来館
山本 真也 京都大学靈長類研究所特定助教
吉田 正俊 自然科学研究機構生理学研究所助教

学術道場生：3名

大杉 直也 東京大学大学院総合文化研究科大学院生
本林 良章 神戸大学大学院人文学研究科大学院生
堀川 裕之 京都大学大学院医学研究科大学院生

Achievement:

2011 fiscal year:

This project aimed to promote the advanced studies on the origins of human mind and related functions. The Japanese word “Kokoro” includes the various English terms such as mind, emotion, intelligence, heart, psychological, will, intention, consciousness, etc. It is obvious that the brain is the responsible organ of human mind. However, the deduction method popular in the Western science may need to have the complimentary approach. The Japanese-style holistic approach can be the seeds of developing the new disciplines for studying brain and mind. The new approach pays attention to the constraints coming from the larger contexts such as society, ecological environment, and the evolution. The fiscal year 2011 was the first year of the three consecutive year program. We tried to show up the new approaches toward human mind: One is Primatology and another is Cognitive robotics. Both disciplines have been uniquely developed in Japan. Moreover, we invited the guest speakers of religious domain, Zen monks etc. We tried to combine together the scientific approaches and religious necessity to find the new seeds of the cutting-edge research targets in the future. In sum, the program successfully illuminated to some extent the new seeds of the advanced studies of human mind and related mental functions.

担当：志村副所長

国際高等研究所
研究プロジェクト「心の起源」
2011年度第1回研究会プログラム

開催日時：2011年4月23日（土） 12:00～17:15

開催場所：国際高等研究所 会議応接室（1F）

研究代表者：松沢 哲郎 国際高等研究所学術参与
担当所長・副所長：志村 令郎 京都大学靈長類研究所教授・所長
副所長

出席者：（19人）

研究代表者	松沢 哲郎	国際高等研究所学術参与／京都大学靈長類研究所教授・所長
参加研究者 (12人)	浅田 稔 足立 幾磨 伊佐 正 幸島 司郎 坂上 雅道 積山 薫 友永 雅己 西田 真也 平田 聰 松林 公藏 山川 宗玄 吉川 左紀子	大阪大学大学院工学研究科教授 京都大学靈長類研究所助教 自然科学研究機構生理学研究所教授 京都大学野生動物研究センター教授 玉川大学脳科学研究所教授 熊本大学文学部教授 京都大学靈長類研究所准教授 NTTコミュニケーション科学基礎研究所主幹研究員 株式会社林原生物化学研究所類人猿研究センター主席研究員 京都大学東南アジア研究所教授 正眼短期大学学長・理事長／正眼寺住職 京都大学こころの未来研究センター教授・センター長
その他参加者 (6人)	亀田 達也 桑子 朋子 佐藤 弥 高橋 里英子 山本 真也 吉田 正俊	北海道大学社会科学実験研究センター教授・センター長 日本科学未来館サイエンスコミュニケーション 京都大学靈長類研究所白眉プロジェクト特定准教授 日本科学未来館サイエンスコミュニケーション 京都大学靈長類研究所特定助教 自然科学研究機構生理学研究所助教

プログラム

4月23日（土）

12:00	昼食、研究所施設見学
13:00	挨拶（高等研から）
13:15	主旨説明： 松沢哲郎「人間とは何か、想像するちから」
13:45	参加者の自己紹介等 各自から5分程度で自己紹介を兼ねて学問の興味等をお話いただく
15:30	休憩： 相互に懇談する機会としてください
16:00	話題提供： 山川宗玄「仏即は心：禅のこころ」
16:30	今後の研究会の進め方と、3年間の行動計画の策定
17:15	終了・現地解散

国際高等研究所
研究プロジェクト「心の起源」
2011年度第2回研究会プログラム

開催日時：2011年10月15日（土）13:00～17:30

開催場所：国際高等研究所216号室（2F）

研究代表者：松沢 哲郎 国際高等研究所学術参与
担当所長・副所長：志村 令郎 京都大学靈長類研究所教授・所長
副所長

出席者：(24人)

研究代表者	松沢 哲郎	国際高等研究所学術参与／京都大学靈長類研究所教授・所長
参加研究者 (メンバー) (9人)	浅田 稔 入来 篤史 坂上 雅道 積山 薫 友永 雅己 西田 真也 平田 聰 ** 山川 宗玄 吉川 左紀子	大阪大学大学院工学研究科教授 理化学研究所脳科学総合研究センター象徴概念発達研究チーム シニアチームリーダー 玉川大学脳科学研究所教授 熊本大学文学部教授 京都大学靈長類研究所准教授 NTTコミュニケーション科学基礎研究所主幹研究員 京都大学靈長類研究所特定准教授 正眼短期大学学長／正眼寺住職 京都大学こころの未来研究センター教授・センター長

**：スピーカー

話題提供者 (ゲストスピーカー) (6人)	秋田 光彦 出水 明 瀧本 彩加 明和 政子 山本 真也 横山 紘一	大蓮寺住職・應典院代表 出水クリニック理事長・院長 京都大学大学院文学研究科大学院生 京都大学大学院教育学研究科准教授 京都大学靈長類研究所特定助教 正眼寺短期大学副学長
-----------------------------	---	--

その他参加者 (5人)	佐藤 弥 高橋 里英子 辻本 雅史 服部 裕子 吉田 正俊	京都大学靈長類研究所白眉プロジェクト特定准教授 日本科学未来館サイエンスコミュニケーションセンター 京都大学大学院教育学研究科教授 京都大学靈長類研究所PD 自然科学研究機構生理学研究所助教
----------------	---	---

学術道場生 (3人)	大杉 直也 本林 良章 堀川 裕之	東京大学大学院総合文化研究科大学院生 神戸大学大学院人文学研究科大学院生 京都大学大学院医学研究科大学院生
---------------	-------------------------	---

プログラム

10月15日（土）

- 13:00 挨拶：国際高等研究所から
- 13:10 主旨説明：松沢哲郎「心の学問」
- 13:20 参加者の各自のごく短い自己紹介

話題提供（前半：心の科学の成果から）司会：入来篤史（理化学研究所）

- 13:30 瀧本彩加（京大・文）モラルの起源
- 14:00 山本真也（京大・靈長研）協力社会の進化
- 14:30 明和政子（京大・教育）周産期から考える心の発達と環境
- 15:00 休憩：相互に懇談する機会とする

話題提供（後半：心の学問の多様性）司会：辻本雅史（京大・教育）

- 15:30 出水明（出水クリニック）在宅ターミナルケアの現場から
- 16:00 秋田光彦（大蓮寺・應典院）葬式をしない寺
- 16:30 山川宗玄（正眼寺）禅の考え方
- 16:45 横山紘一（正眼寺短期大学）唯識入門
- 17:30 終了

国際高等研究所
研究プロジェクト「心の起源」
2011年度第1回幹事会プログラム

開催日時：2011年10月15日（土）10:00～13:00

開催場所：国際高等研究所セミナーラウンジ（1F）

研究代表者：松沢 哲郎 国際高等研究所学術参与
担当所長・副所長：志村 令郎 京都大学靈長類研究所教授・所長
副所長

出席者：(8人)

研究代表者	松沢 哲郎	国際高等研究所学術参与／京都大学靈長類研究所教授・所長
参加研究者 (メンバー)	入来 篤史	理化学研究所脳科学総合研究センター象徴概念発達研究チーム シニアチームリーダー
(6人)	坂上 雅道	玉川大学脳科学研究所教授
	積山 薫	熊本大学文学部教授
	友永 雅己	京都大学靈長類研究所准教授
	西田 真也	NTTコミュニケーション科学基礎研究所主幹研究員
	吉川 左紀子	京都大学こころの未来研究センター教授・センター長
その他参加者 (1人)	服部 裕子	京都大学靈長類研究所 PD

プログラム

10月15日（土）

10:00～13:00 幹事会

- ・ 今後の研究会について
- ・ 来年度の高等研カンファレンスについて
- ・ その他

国際高等研究所
研究プロジェクト「心の起源」
2011年度第3回研究会プログラム

開催日時：2012年1月28日（土）13:00～17:30
1月29日（日）9:30～13:00

開催場所：国際高等研究所レクチャーホール（1F）
けいはんなプラザ会議室「黄河」（5F）
619-0237 京都府相楽郡精華町光台1丁目7番地

研究代表者：松沢 哲郎 国際高等研究所学術参与
京都大学靈長類研究所教授・所長
担当所長・副所長：志村 令郎 副所長

出席者：（38人）

研究代表者	松沢 哲郎	国際高等研究所学術参与／京都大学靈長類研究所教授・所長
参加研究者 (メバード)	浅田 稔 足立 幾磨 入來 篤史	大阪大学大学院工学研究科教授 京都大学靈長類研究所国際共同先端研究センター特定助教 理化学研究所脳科学総合研究センター象徴概念発達研究チーム シニアチームリーダー
	内田 伸子 幸島 司郎 坂上 雅道 積山 薫 高橋 里英子 友永 雅己 西田 真也	お茶の水女子大学名誉教授 京都大学野生動物研究センター教授 玉川大学脳科学研究所教授 熊本大学文学部教授 日本科学未来館サイエンスコミュニケーションセンター 京都大学靈長類研究所准教授 NTTコミュニケーション科学基礎研究所 人間情報研究部感覚情動研究グループ主幹研究員
	長谷川 寿一 明和 政子 吉川 左紀子	東京大学大学院総合文化研究科教授・研究科長 京都大学大学院教育学研究科准教授 京都大学こころの未来研究センターセンター長・教授

話題提供者 (ゲストスピーカー)	有田 菜穂 伊村 知子 兼子 峰明 狩野 文浩 木下 こづえ 酒井 朋子 田中 正之 服部 裕子 藤澤 道子 藤田 和生 松井 三枝 村上 郁也	京都大学大学院教育学研究科修士課程2年 京都大学靈長類研究所特定助教 京都大学靈長類研究所後期博士課程3年 京都大学靈長類研究所後期博士課程3年 神戸大学大学院農学研究科研究員 京都大学大学院理学研究科後期博士課程3年 京都大学野生動物研究センター准教授 京都大学靈長類研究所ポスドク研究員 京都大学野生動物研究センター助教 京都大学大学院文学研究科教授 富山大学大学院医学薬学研究部准教授 東京大学大学院総合文化研究科准教授
---------------------	---	--

山本 真也	京都大学霊長類研究所 ヒト科 3 種比較研究プロジェクト特定助教	
吉田 正俊	自然科学研究機構生理学研究所助教	
渡辺 茂	慶應義塾大学文学部教授	
Christoph Dahl	京都大学霊長類研究所ポスドク研究員	
Chris Martin	京都大学霊長類研究所後期博士課程 3 年	
その他参加者 (4 人)	中村 美穂 開 一夫 水野 壮 宮原 裕美	京都大学野生動物研究センター准教授 東京大学大学院総合文化研究科教授 日本科学未来館 日本科学未来館
学術道場生 (3 人)	大杉 直也 本林 良章 堀川 裕之	東京大学大学院総合文化研究科大学院生 神戸大学大学院人文学研究科大学院生 京都大学大学院医学研究科大学院生

プログラム

1 月 28 日 (土)

13 : 00～15 : 00 第 1 部

15 : 00～15 : 30 休憩

15 : 30～17 : 30 第 2 部

話題提供者 :

松沢哲郎 (京大・霊長研)

“Outgroup: The logic of comparing the closely related species”

友永雅己 (京大・霊長研)

“Factors affecting motion direction judgment in chimpanzees”

足立幾磨 (京大・霊長研)

"Primate origins of language"

Christoph Dahl (京大・霊長研)

"Multi-disciplinary approach on face perception to disentangle developmental characteristics"

服部裕子 (京大・霊長研)

"Spontaneous entrainment of tapping to external rhythms in chimpanzees"

山本真也 (京大・霊長研/野生動物)

"Mechanisms of cooperation in our evolutionary relatives"

Chris Martin (京大・霊長研)

"Chimpanzee coordination in shared touch-panel experiments"

狩野文浩 (京大・霊長研)

"A comparative eye-tracking study in four genera of hominid"

兼子峰明 (京大・霊長研)

"The self in action: A comparative study of the perception of one's own actions in chimpanzees and humans"

渡辺茂 (慶應大・文)、演題未定

"Phylogeny of aesthetics"

1月29日（日）9:30～13:00

話題提供者：

藤田和生（京大・文）

「認知的メタプロセスの進化」

有田菜穂・明和政子（京大・教育）

「自閉症スペクトラム児にみる発話時の視聴覚情報の統合処理」

酒井朋子（京大・理）

「チンパンジーを通して迫るヒトの脳の進化的起源」

「胎児期からたどるヒトの大脳化の由来」

吉田正俊（生理研）

「盲視と半側空間無視の動物モデル」

松井三枝（富山大・医学薬学）

「fMRIによる脳機能イメージング」

木下こづえ（神戸大・農）

「希少動物の発情のモニタリング：ユキヒョウおよびチーターを例に」

伊村知子（京大・靈長研）

「チンパンジーにおける食物の質感知覚」

村上郁也（東大・総合文化）

「物の動きと眼の動きの心理物理学」

田中正之（京大・野生動物）

「京都市動物園の靈長類3種を対象としたアラビア数系列学習」

藤澤道子（京大・野生動物）

「野生チンパンジーの出産」

国際高等研究所
研究プロジェクト「心の起源」
2011年度第2回幹事会プログラム

開催日時：2012年1月28日（土） 11：00～13：00

開催場所：国際高等研究所セミナー1（1F）

研究代表者：松沢 哲郎 国際高等研究所学術参与
京都大学靈長類研究所教授・所長
担当所長・副所長：志村 令郎 副所長

出席者：（9人）

研究代表者	松沢 哲郎	国際高等研究所学術参与／京都大学靈長類研究所教授・所長
参加研究者 (メンバー)	浅田 稔 積山 薫 友永 雅己 西田 真也	大阪大学大学院工学研究科教授 熊本大学文学部教授 京都大学靈長類研究所准教授 NTTコミュニケーション科学基礎研究所 人間情報研究部感覚情動研究グループ主幹研究員
(6人)	明和 政子 吉川 左紀子	京都大学大学院教育学研究科准教授 京都大学こころの未来研究センターセンター長・教授
その他参加者 (2人)	服部 裕子 開 一夫	京都大学靈長類研究所 PD 東京大学大学院総合文化研究科教授

プログラム

1月28日（土）

11：00～13：00 幹事会

- ・ 今後の研究会について
- ・ 来年度の高等研カンファレンスについて
- ・ その他

国際高等研究所
研究プロジェクト「心の起源」
2012年度第1回（通算第3回）幹事会プログラム

日 時：2012年4月26日（木） 10:00～13:00

場 所：京都大学こころの未来研究センター稻盛財団記念館 225号室
606-8501 京都市左京区吉田下阿達町46

出席者：(7人)

研究代表者	松沢 哲郎	国際高等研究所学術参与／京都大学靈長類研究所教授
参加研究者	入來 篤史	理化学研究所脳科学総合研究センター象徴概念発達研究チーム シニアチームリーダー
	亀田 達也	北海道大学社会科学実験研究センター教授・センター長
	坂上 雅道	玉川大学脳科学研究所教授
	積山 薫	熊本大学文学部教授
	西田 真也	NTTコミュニケーション科学基礎研究所 人間情報研究部感覚情動研究グループ主幹研究員
	吉川 左紀子	京都大学こころの未来研究センター教授・センター長

プログラム：

- ・今後の進め方について

国際高等研究所
研究プロジェクト「心の起源」
2012年度第1回（通算第4回）研究会プログラム

日 時：2012年4月26日（木） 13:00～19:30

場 所：京都大学吉田泉殿
606-8301 京都市左京区吉田泉殿町

出席者：(25人)

研究代表者	松沢 哲郎	国際高等研究所学術参与／京都大学靈長類研究所教授
参加研究者	**浅田 稔 足立 幾磨 入來 篤史 亀田 達也 **幸島 司郎 積山 薫 高橋 里英子 西田 真也 平田 聰 明和 政子 山岸 俊男 吉川 左紀子 吉田 正俊 渡邊 正孝	大阪大学大学院工学研究科教授 京都大学靈長類研究所国際共同先端研究センター特定助教 理化学研究所脳科学総合研究センター象徴概念発達研究チーム シニアチームリーダー 北海道大学社会科学実験研究センター教授・センター長 京都大学野生動物研究センター教授 熊本大学文学部教授 日本科学未来館サイエンスコミュニケーション NTTコミュニケーション科学基礎研究所 人間情報研究部感覚情動研究グループ主幹研究員 京都大学靈長類研究所特定准教授 京都大学大学院教育学研究科准教授 玉川大学脳科学研究所教授 京都大学こころの未来研究センター教授・センター長 自然科学研究機構生理学研究所助教 東京都医学研究所特任研究員

**：スピーカー

話題提供者（ゲストスピーカー）

キムバリー・ホッキングス タチアナ・ハムル カティーナ・コープス スザーナ・カルバーリヨ ドラ・ビロ 金森 朝子 中村 美知夫 林 美里 山極 寿一 山本 真也	ニューリスボン大学 ケント大学 オックスフォード大学 ケンブリッジ大学 オックスフォード大学 京都大学靈長類研究所研究員 京都大学野生動物研究センター 京都大学靈長類研究所助教 京都大学大学院理学研究科教授 京都大学靈長類研究所特定助教
---	---

プログラム：

「心の起源：アウトグループから考える」（公用語：英語）

人間の心の進化を考えるうえで、アウトグループという発想にいたりました。

今回は、チンパンジー・ゴリラ・オランウータンというヒト科3属をアウトグループにします。

さらにそのアウトグループとして、生物ではないものとして、ロボットをもってきました。

人間の心の起源を考える契機にしてください。

13:00 研究会

1. キムバリー・ホッキングス（ニューリスボン大学）：人間とチンパンジーの共存
2. タチアナ・ハムル（ケント大学）：野生チンパンジーの棒道具の使用
3. カテリーナ・コーパス（オックスフォード大学）：野生チンパンジーのつくる地上巣
4. スザーナ・カルバーリョ（ケンブリッジ大学）：靈長類考古学：とくに石器使用を中心に
5. ドラ・ビロ（オックスフォード大学）：野生チンパンジーにおける石器の再利用
6. 浅田稔（大阪大学）：認知ロボティクスの紹介

16:00 休憩

16:15～19:30 研究会

7. 林美里（京大靈長類研究所）：オランウータンの野生復帰プログラム
8. 金森朝子（京大靈長類研究所）：ダナムバレイの野生オランウータン
9. 山本真也（京大靈長類研究所）：チンパンジーとボノボの社会行動の比較
10. 幸島司郎（京大野生動物研究センター）：
　　ブラジル・ボルネオ・インドをつなぐ熱帯における野生生物多様性保全研究の展望
11. 中村美知夫（京大野生動物研究センター）：マハレの野生チンパンジー
12. 山極寿一（京大理学研究科）：ムカラバとカフジの野生ゴリラの長期観察

靈長類学の特に野外長期研究の成果を題材にした。認知ロボティクス研究をめざることで、話題提供に少しだけ彩をもたせた。聴衆は、神経科学と認知科学と心理学の研究者が多かった。普段聞くことのできない話、普段でることのない質問、普段は考えることも無い発想が交錯して、非常に興味深い研究会になった。すべてを英語での発表と討論にした。なお、外国人の招聘については全額を 京都大学靈長類研究所特別事業「人間の進化」に依拠した。記して感謝したい。

国際高等研究所
研究プロジェクト「心の起源」
2012年度第2回（通算第4回）幹事会プログラム

日 時：2012年9月14日（金） 10:00～12:00

場 所：国際高等研究所セミナー1

出席者：（6人）

研究代表者	松沢 哲郎	国際高等研究所学術参与／京都大学靈長類研究所教授
参加研究者	亀田 達也	北海道大学社会科学実験研究センター教授・センター長
	坂上 雅道	玉川大学脳科学研究所教授
	積山 薫	熊本大学文学部教授
	友永 雅己	京都大学靈長類研究所准教授
	西田 真也	NTTコミュニケーション科学基礎研究所主幹研究員

プログラム：

- ・今後の進め方について

国際高等研究所
研究プロジェクト「心の起源」
2012 年度第 2 回（通算第 5 回）研究会プログラム

日 時：2012 年 9 月 14 日（金） 13:30～18:00
9 月 15 日（土） 9:00～14:45

場 所：国際高等研究所 216 号室

出席者：(22 人)

研究代表者	松沢 哲郎	国際高等研究所学術参与／京都大学靈長類研究所教授
参加研究者	浅田 稔	大阪大学大学院工学研究科教授
	足立 幾磨	京都大学靈長類研究所国際共同先端研究センター助教
	入来 篤史	理化学研究所脳科学総合研究センター 象徴概念発達研究チームシニアチームリーダー
	幸島 司郎	京都大学野生動物研究センター教授
	高橋 里英子	日本科学未来館サイエンスコミュニケーションセンター
** 友永 雅己		京都大学靈長類研究所准教授
	松林 公藏	京都大学東南アジア研究所教授
	明和 政子	京都大学大学院教育学研究科准教授
	山岸 俊男	玉川大学脳科学研究所教授
	吉田 正俊	自然科学研究機構生理学研究所助教
** 渡辺 茂		慶應義塾大学文学部教授
渡邊 正孝		東京都医学総合研究所特任研究員

**：スピーカー

話題提供者（ゲストスピーカー）

Dominique Lestel	École Normale Supérieure
Teresa Romero	東京大学
Atsushi Senju	Birkbeck College
菅原 和孝	京都大学大学院人間・環境学研究科教授
宮坂 敬造	慶應義塾大学文学部教授

その他参加者	Youcef Boucheikioua	University of Lille 大学院生
	磯村 朋子	京都大学靈長類研究所大学院生
	井上 裕珠	高等研学術道場プログラム道場生
		一橋大学大学院社会学研究科大学院生
	田中 正之	京都大学野生動物研究センター准教授

プログラム：

Cross-cultural and cross-species communication

14th September

- 13:30 -13:45 Opening Remark by Professor Tetsuro Matsuzawa (Kyoto University)
- 13:45 -14:45 “Operant conditioning : torture, communication or both?”
Shigeru Watanabe (Keio University)
- 14:45 -15:45 “Social perception in chimpanzees”
Masaki Tomonaga (Kyoto University)
- 15:45 -16:00 coffee break
- 16:00 -17:00 “Cross-species communication:
what human-dog communication can tell us about the mind”
Teresa Romero (The University of Tokyo)
- 17:00 -18:00 “Observing monkeys, encountering lions:
Cross-species interactions among hybrid baboons and |Gui Bushmen.”
Kazuyoshi Sugawara (Kyoto University)

15th September

- 9:00 -10:00 “The Question of Ethnocentrism in Ethology”
Dominique Lestel (ENS)
- 10:00 -11:00 “Transcultural Perspective on Diversities of Imagination and
Practices concerning Cross-cultural and Cross-species Communication”
Keizo Miyasaka (Keio University)
- 11:00 -11:15 coffee break
- 11:15 -12:15 "Insights from adult-infant communication in humans"
Atsushi Senju (Birkbeck College)
- 12:15 -13:30 Lunch
- 13:30 -14:30 General discussion
- 14:30 -14:45 Closing remark by Professor Shigeru Watanabe

国際高等研究所
研究プロジェクト「心の起源」
2012年度第3回（通算第6回）研究会プログラム

日 時：2013年 2月 24日（日） 10:00～17:30

場 所：東京大学駒場キャンパス 2号館 3F 大会議室
東京都目黒区駒場 3-8-1

出席者：(13人)

研究代表者	松沢 哲郎	国際高等研究所学術参与／京都大学靈長類研究所教授
参加研究者	浅田 稔	大阪大学大学院工学研究科教授
	入来 篤史	理化学研究所脳科学総合研究センター 象徴概念発達研究チームシニアチームリーダー
**	亀田 達也	北海道大学社会科学実験研究センター教授・センター長
	坂上 雅道	玉川大学脳科学研究所教授
	積山 薫	熊本大学文学部教授
	友永 雅己	京都大学靈長類研究所准教授
	西田 真也	NTTコミュニケーション科学基礎研究所主幹研究員
	長谷川 寿一	東京大学大学院総合文化研究科教授・研究科長
	吉川 左紀子	京都大学こころの未来研究センター教授・センター長

**：スピーカー

話題提供者（ゲストスピーカー）

服部 裕子 京都大学靈長類研究所 研究員

その他参加者 岡ノ谷 一夫 東京大学教養学部生命・認知科学科教授
村上 郁也 東京大学大学院総合文化研究科准教授

テーマ：心の起源と脳イメージング

開催趣旨：心と脳は密接な関係をもっている。一方が他方に還元できるわけではないが、それをどう結び付けるかが問われている。現在、fMRIによる脳イメージングが、心の働きの脳内基盤を探る研究用ツールとして急速に一般的になってきた。そこで、社会性を軸に脳イメージングで明らかになっている成果について議論し、心の進化的基盤へのつながりを考察する。また、ヒト、ヒト以外の靈長類、鳥類、ロボットといった多様な研究対象において、これまで実績を積んできた研究者や、期待を寄せる研究者、そうした発展を眺める立場の研究者が一堂に会して、心の起源研究の今後の展望を語る。

プログラム

10:00 開会挨拶：松沢哲郎（京大）

話題提供

司会：長谷川寿一（東大）、指定討論：坂上雅道（玉川大）、西田眞也（NTT）

10:10 亀田達也（北大）「実験社会科学と脳イメージングを連携した心の先端研究」

11:00 服部裕子（京大）「共感の基礎となる同調行動」

11:30 総合討論

12:00 昼食・休憩

13:30 今後のプロジェクトについての進め方を議論

17:30 終了、解散